

第22回全国仏教壮年東北大会

大会実行委員長 佐藤治雄

9月2日、トークネットホール仙台で「第22回全国仏教壮年東北大会」が開催されました。専如ご門主ご臨席のもと、全国各地から1300人を超える仏教壮年が、「ともにいのち輝く朋友の笑顔」のテーマのもと一堂に会し、会場をみどりの式章でいっぱいにしてくれました。



開会を楽しみに待つ参加者

連盟旗入場に始まり、讃仏偈は東北教区仏社会員が調声を、参加者全員でお勤めしました。ご門主様のお言葉に続いて、結成50周年以上を迎える単位仏社の表彰を行い全国各地から18の単位仏社が表彰されました。

記念行事として、桂小枝師、桂三金師の落語が披露され、会場がどっと湧きました。

記念講演では足利一之師（宮城組・専能寺住職）が「たのむより先に」という内容でご講演され、会場は笑いと涙で最高潮な盛りあがりを見せました。



足利一之師の記念講演

続いて会場を替えて開催されました歓迎レセプションでは、熊本教区のちょんかけコマ、東北教区仙台すずめ踊りなどの伝統的出し物も披露され、改めて結びつきを深めることに一役かっておったことと感じました。



熊本地震での支援の御礼に、熊本教区の仏壮会員による「ちょんかけコマ」(左)と、「仙台のすずめ踊り」(右)が披露されました。

寺院数そのものが数少ない東北の地での大会で、何かとご不便をおかけしたと思いますが、準備の段階から全国から仏壮の仲間がかけつけてくれ、東北のスタッフとともに会場の後片付けにまで汗を流してくれました。そのおかげでなんとか皆様をお迎えすることができました。

翌日の津波被災寺院にお参りするツアーでも様々な教区の方々との交流が図られ、改めていのちに向き合う時間が取れたとのお声をいただきました。

なお次回開催は、平成32年度備後教区です。また全国の仏教壮年の仲間とお会い出来ることを楽しみに3年後を迎えましょう。



閉会式では次回担当の備後教区の皆さんが登壇、大会をアピール。